

令和 6年 2月

# 池淵愛 学位論文審査要旨

主 査 山 崎 章

副主査 檜 山 武 史

同 谷 口 文 紀

## 主論文

Increased chemokine ligand 26 expression and its involvement in epithelial-mesenchymal transition in the endometrium with adenomyosis

(子宮腺筋症の子宮内膜におけるケモカインリガンド26の発現増加と上皮間葉転換への関与)

(著者：池淵愛、尾崎充彦、和田郁美、長田広樹、柳樂慶、東幸弘、岡田太、原田省、谷口文紀)

令和5年 Journal of Gynecology Obstetrics and Human Reproduction

DOI:10.1016/j.jogoh.2023.102645

## 参考論文

1. Efficacy of norethisterone in patients with ovarian endometrioma

(卵巣子宮内膜症性嚢胞を有する患者に対するノルエチステロンの効果)

(著者：谷口文紀、江夏亜希子、池淵愛、山根恵美子、森山真亜子、村上二郎、原田崇、原田省)

平成29年 Yonago Acta Medica 60巻 182項～185頁

2. A controlled clinical trial comparing potent progestins, LNG-IUS and dienogest, for the treatment of women with adenomyosis

(子宮腺筋症患者に対する黄体ホルモン治療としてのLNG-IUSとジエノゲストの比較対照試験)

(著者：太田郁子、谷口文紀、太田啓明、長田広樹、和田郁美、中曾崇也、池淵愛、佐藤絵理、東幸弘、原田省)

令和3年 Reproductive Medicine and Biology 20巻 427頁～434頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、子宮腺筋症の子宮内膜基底層において、ケモカインリガンド26 (CCL26) の発現上昇を認め、CCL26が子宮内膜上皮細胞の上皮間葉転換を誘導することを示した。子宮腺筋症におけるCCL26発現上昇が、本症発生の初期段階に関与するのか、二次的に発現が上昇するのか、今後さらなる研究が必要である。本症の確定診断には摘出子宮の病理組織検査を要するが、本研究では非侵襲的に採取可能な子宮内膜組織を用いており、CCL26が本症の早期診断に有用な分子マーカーとなり得ると考えられる。